



9th JPNIC Open Policy Meeting
Internet Week 2005, Yokohama
2005/12/8

インターネットガバナンス アップデート

(社)日本ネットワークインフォメーションセンター
IP分野担当理事・IP事業部長
前村 昌紀



前回OPM(05年7月)までの おさらい

1

- WGIGで起こったこと
 - Zhao paperを発端とする、IPv6アドレス管理に関する議論
 - 盛り上がりは山を越えた。今後どうなることやら
 - インターネットガバナンス諸問題に関するIssue Papersの取りまとめ
 - 取りまとめとパブリックコメント終了
 - ICANNの統治に関する議論
 - WGIGの期限満了に向けて動きが活発化



前回OPM以降のできごと

WGIGが最終報告書を上程 (7月)

- ルートサーバ、ドメイン名、IPアドレスなどの管理に対する監視(Oversight)形態を4通り提案
 1. 国連配下の政府間組織を創設、ICANN監視
 2. 監視不要、GAC充実、フォーラム新設
 3. 政府主導の国際組織を創設、主導的役割
 4. 政府機関がICANNを監視、ICANNを国際化
- インターネットガバナンス全般を扱うフォーラムの新設を提案



WSIS準備会合開催(9月)

- 11月のWSIS本会合へ向け、激しい議論が交わされた
 - 米国は現状維持を基本とする主張
 - EUが政府の役割を強調する提案
 - 途上国側は米国のICANN監督機能を問題視
- 意見はまとまらず時間切れ。WSIS本会合直前に交渉を再開することとなった

直前準備会合・WSIS本会合(11月)

- **WSIS本会合直前に決着、決議案を採択**
 - 国際連合管轄でインターネット ガバナンス フォーラム (IGF)を設立し、マルチステークホルダーアプローチで最低5年間維持する
 - 初回会合を2006年にギリシャ・アテネで開催
 - ICANNに関する体制は、米国政府の関与を含めて全て当面現状のまま
 - 結果的には米国の意向がほぼ通った形
 - しかし、ccTLDに関する主権、フォーラムの新設が認められたことから、途上国側としてもある程度納得できる結論となった
 - チュニスアジェンダの仮訳：
 - http://www.soumu.go.jp/s-news/2005/051119_1.html#s1



IGF (Internet Governance Forum)

77. IGFは監督権限を持たず、既存の取決め、仕組み、機関や組織を置き換えることは行わない。しかし、それぞれを包括し、その能力を活用するものである。IGFは中立で、重複することなく、拘束力のないプロセスに基づいて進められる。ここにはインターネットの日常的又は技術的運営は含まれない。

実質的な権限はない

78. 国連事務総長は、全ての関係者に対し、地理的バランスを考慮した上で、IGFの立ち上げ会合への招待を行わなければならない。

WGIGと同様

情報社会に関するユニスアジェンダ (総務省仮訳より)



まとめ

- WGIG/WSISの議論を通じ、インターネットガバナンスの諸問題の良い整理ができた
- ICANNを中心としたインターネット資源管理体制は当面現状のまま
- 2006年以降、IGFに場を移して議論が続けられる
 - 今後の議論の行く末にも要注目



Q&A

